

令和7年度 第3回学校運営協議会議事録

さいたま市立川通中学校

1 日 時 令和8年2月17日(水) 13:40~15:30

2 場 所 川通中学校会議室

1	平田 あつし	東岩槻連合自治会顧問
2	三次 宣夫	川通地区自治会連合会長・增長自治会長
3	渡邊 美佐子	民生児童委員
4	輪島 泉	主任児童委員
5	木下 由美	川通中学校 チャレンジスクール実行委員長
6	安藤 孝吏	ふれあいプラザいわつき館長
7	田中 久美子	バンビ保育園園長
8	六沢 純光	慈眼山常源寺住職
9	葉抱 敬介	川通小学校 校長
10	堀 麻美	川通中学校 P T A顧問
11	牧内 香里	川通中学校 P T A会長
12	鈴木 純	川通中学校 校長
13	山口 祐貴子	川通中学校 教頭
14	春山 悟	川通中学校 学校地域連携コーディネーター

茅

野 真由 (研究主任)

鎌木 奉武 (生徒指導主任)

森田 洋子 (教育相談主任)

田口 祐子 (さわやか相談員)

欠席者 委員

1 藤田 敦 上里小学校 校長

4 次第

- (1) 校長挨拶
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 学校の現況報告

- ①令和7年度学校評価について（教頭）
 - ②学校課題研究について（研究主任）
 - ③生徒指導及び教育相談について（生徒指導主任・教育相談主任・さわやか相談員）
 - ④チャレンジスクール、ボランティア制度の現状について（学校地域連携コーディネーター）
 - ⑤今年度の振り返り及び次年度の学校運営に関する基本的な方針について（校長）
 - ・令和7年度学校自己評価システムシートについて
 - ・令和8年度学校運営に関する基本的な方針について

5 熟議「令和7年度 地域一体型のキャリア教育について」

【主な意見】

- ・学校は地域とともににあるという根本理念のもと、小学校の周年行事には地域との交流の機会を多く設定するようにした。小学校では、「地域を学校に招いて」交流してきたが、中学校では、「地域に飛び出して」交流するという発展がよい。6歳から15歳までの小中一貫で地域を盛り上げていこう！という姿勢で積極的に小中で連携を図りたい。
- ・地域に出ていくと、学校の中だけではできない年齢が違う大人や高齢者等との交流の機会ができる。地域の防災訓練等で、中学校にボランティアを依頼して、異年齢で関われる機会を創出できればよい。また、未来ワーク体験で、今年度は桜山中学校と同時期の活動となった。違う学校の生徒と学ぶよい機会となった。
- ・岩槻フェスティバルや小学校での宿題教室など、中学生にボランティアにきつかった。参加した生徒は、一生懸命子どもに教えてくれた。こういった経験が積極的に地域に関わろうとする気持ちにつながるのではないか。中には、不登校だった生徒もいたようだが、地域への参加をしたことをよいきっかけとして、学校にも楽しくいってくれればいいなと思う。
- ・地域に出ていくと、家庭内の親以外の大人との関わりが生まれる。PTA会長という立場もあり、子どもを連れてボランティア等の地域行事に参加させてきたし、友達も一緒に参加するように声をかけてきた。最初は面倒臭いと言っていたが、行ってみたら楽しく活動している様子を見る事ができた。また、地域行事等に参加して、小さい子との関わりを通して、「小さい子の面倒を見る事が好き、楽しい」と気づき、将来の職業につながるケースもある。ボランティア登録はしたが、実際に活動をしていない生徒もいるようなので、どういった「きっかけ」が作れるかが大切。
- ・働いている母親も多い中で、子どもに地域の大人との関わりを持たせることは大切。挨拶等、地域の大人からの働きかけも重要だと感じる。
- ・ふれあいプラザの様々な行事や教室などに中学生ボランティアを依頼したい。
- ・日程のマッチングも重要。地域のごみ0運動や地域神社の清掃等にボランティアを依頼したい。
- ・この地域では、高齢者が多い。働いている保護者も多い。そんな地域で、何かあつたら、中学生は戦力となる。
- ・合唱祭での舞台経験、体育祭での係活動など、様々な体験を通して、将来との向き合い方が変わってくる。子どもたちには、たくさんの体験が必要。
- ・基礎学力の向上だけでなく、さまざまな勉強や力がさまざまなものや将来に結び付く、勉強したことが役立つといったことをしっかりと教えていくことが、子どもたちの職業の幅を広げ、将来につながる学びになるのではないか。

6 諸連絡

- (1) 学校運営協議会委員アンケート調査について
- (2) 令和7年度卒業証書授与式、令和8年度入学式について
- (3) 次年度の予定について